

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	12-095	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Comparative performance of the AUDIT-C in screening for DSM-IV and DSM-5 alcohol use disorders. DSM-IV と DSM-5 のアルコール使用障害のスクリーニングにおける AUDIT-C の実用性の比較		
執筆者		
Dawson DA, Smith SM, Saha TD, Rubinsky AD, Grant BF.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2012 Dec 1;126(3):384-8.		
キーワード		
アルコール使用障害、スクリーニング、AUDIT-C、DSM-IV、DSM-5		
要 旨		
背景： アルコール使用障害(以下 AUD)判定基準の DSM-5 改訂案では、DSM-IV の AUD 症例のかなりの割合は、いくつかの新しい症例が追加され、重症度の点で、失われたり、シフトされたりする。したがって、DSM-IV の AUD スクリーニングにおける AUDIT-C の実用性は DSM-5 の AUD に拡大適用できるとは言えない。		
方法： 米国の 21 歳以上の過去飲酒者の代表集団に AUDIT-C を実施し、DSM-IV による AUD (すべての AUD、乱用と依存を含む) と DSM-5 による AUD (すべての AUD、中等度、重度の AUD を含む) のスクリーニングを比較した。		
結果： 最適な AUDIT-C のカットポイントは DSM-IV および DSM-5 の AUD で同一であった。すなわち、「4 以上ならば AUD」、「3 以上なら乱用 AUD・4 以上なら中等度 AUD」、「4 以上なら依存 AUD、5 以上なら重度 AUD」である。スクリーニングの特性は DSM-5 の重度 AUD で DSM-IV の依存よりもわずかによかったが、他の診断と大きくは異ならなかった。最適なスクリーニングのカットポイントにおいて、陽性適中率は DSM-5 のすべての AUD と中等度 AUD で DSM-IV のそれよりもわずかに高かった。感度は DSM-5 の重度 AUD で DSM-IV の依存よりもわずかに高かった。最適なスクリーニングカットポイントは過去の飲酒者において上昇したが、DSM-IV と DSM-5 で一致したままであった。		
結論： 臨床医にとっては、DSM-5 見直しにより、現行のスクリーニング手順の大幅な見直しは必要ではなく、スクリーニング偽陽性がより少なくなるという利点がある。		